

「御国が来ますように！！！」

～御国シリーズおさらい～

マルコ 13:44～48

御国シリーズ1 マタイ6:9～15、6:1～8

「御国が来ますように！！！」～あなたの真心は？～

御国という言葉は「神様が共におられるところ」と大きくまとめる事ができます。御国に入るには私達がどのような心で生きていけば良いのかが聖書には書いています。御国はあなたに来ますと語られました。外国で日本大使館というのはそこだけ日本で、日本大使という人がいるように、私達は御国の大使なのです。この世の中でいろんな価値観で言われてきますが、私達は御国の大使なので私達の中は御国の法律です。だからこそ私達は聖書の事をもっと知り、天のお父さんはどんな方なのかを知る事が大事です。御国の大使とはどういう事なのかと語られています。

御国の大使として

『御国が来ますように。みこころが天で行われるように地でも行われますように。』(マタイ 6:9)

これは祈りです。御国は天のお父さんがいる所ですが、御国の法律は愛です。神様の愛が私に来ますように、そして神様がしたい愛の事がこの地上でも行われますようにと私達は大使として祈る責任があります。祈っているのに私達が天の御国の考えではなく、自分の考えで大使をしたら良くありません。天のお父さんは愛の方で分け隔たりがなく、偽りも無いけど私達の心は偽りでいっぱいです。御国が愛の法律で神様が喜ぶ事をできますようにと祈りながら、私達の心の中に神様ではない自己中心、自己満足の心があっていいのか問われました。そんな美しい祈りしながら、私はイエス様信じていますと言いながら、あなたはまだ、王座に座るのですか？

『もし人の罪を赦すなら、あなたがたの天の父もあなたがたを赦してくださいませ。しかし、人を赦さないなら、あなたがたの父もあなたがたの罪をお赦しになりませぬ。』マタイ 6:14-15

これは比較、劣等感・相手や自分を責める心を捨てるということです。神様の赦しがなくては捨てることは出来ません。人を責める前に自分を責めていませんか。心の王座を明け渡すということは自分を責め続ける心さえも捨てるということです。私達は神様によって愛されていて赦されています。ですから私達は赦された罪人として、この地の大使を務めることができます。

要点

神様はあなたに御国をもたらしたいのです。あなたの不安な心、恐れる心、責める心、偽りの心、そこに天の御国の平安を届けたいのです。あなたは愛されている事を届けたいのです。ですからイエス様をお迎えしましょう。あなたの一番汚いものをイエス様に持って行きましょう。私達は大使ですから、大使である責任があります。大使としての責任を果たしていきましょう。

『それから、イエスは弟子たちに言われた。「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負い、そしてわたしについて来なさい。』マタイ 16:24

自分の考え、自分の全てを捨ててイエス様に従っていき人生を歩みましょう。その為に天の国の法律が書かれている聖書を知る事が大事です。

「御国シリーズ2 マルコ8:1～21

「ストップ！うまくいかない」～本当に理解しているか？

生き方はただ一つ！イエス様にフォーカスしてみよう。

『弟子たちは、パンを持って来るのを忘れ、船の中には、パンがただ一つしかなかった。その時、イエスは彼らに命じて言われた。「パリサイ人のパン種とヘロデのパン種とに気をつけなさい。』マルコ 8:14-15

弟子たちはパンを持って来るのを忘れてパンが一つしかないのをどう分けるのかと議論していたのですが、イエス様はそのパンがどんな種で作られているのかに気をつけなさい。と言われました。気をつけるべきパン種は、パリサイ人のパン種とヘロデのパン種です。パリサイ人のパン種はルールに生きて間違っただ道を生きる生き方。ヘロデのパン種とは世俗の生き方。この世の悪に従う生き方です。しかし、私達はそのパン種には気付くのは、とても実は難しいのです。何故ならその世俗に生きていくからです。培ってきた価値観の中には聖書の価値観では間違っていることがあるわけです。だからこそ種を選んで取り分けていく為には神様に目を向けない限り分からないのです。悟れないのです。ですから、神様に私達が近づいて悟る力をいただき、天のお父さんがどのようなお方かを知りたいと求めていきましょう。

要点

御国は自分の罪を認めて赦す心に訪れます。神様があなたに御国をもたらしたいと願っておられるのは赦しをあなたに受取ってほしい。そして、あなたが赦しを受け取ったらあなたの赦せない心も神様に出して赦せるように願ってほしいことが大切です。

御国シリーズ3 マルコ8:34～37

「一つのパン 真のいのち」～パン種のたとえ～

【パリサイ人のパン種】

「パリサイ人のパン種とヘロデのパン種とに十分気をつけなさい。」マルコ 8:15

・パリサイ人(へ) パラーシュ：明らかに分離→イエスはパン種と言った。
パラーシュとは「明らかに分離する」という意味です。イエス様はそれをパン種だと言われました。元々パリサイ人というのはこれまでのキリスト教の色々な問題をみて、それを変えようとして立ち上がった人でした。それは本来素晴らしいことになるはずでしたが、相手の問題をみてそれを裁く方法で変えようとしたことが間違えていた。結果、パリサイ人達は聖書で間違っただの人たちの例えとして使われています。裁く心で相手を指摘して変えようとしてもそれは変わりません。特に何かを変えてやろうと思いのある人はこういう事に陥りやすいので気を付けましょう。あなたに裁く心は無いですか。あなたの心は本当に神様が皆を愛するように愛の心でやっていますかと投げかけられています。また、人に合わせている行為も同じだと書かれています。結局相手を指摘して批判して相手を変えようとしても変化はおこりません。

【ヘロデのパン種】

・創11:4-9にバベルの塔の話があります。「あの神のようになろう」「塔の頂上に登ろう」と人が造ったもの。神は降りて来てそれを壊された。

・(へ)ヤラド：降りてくるという言葉が「ヘロデ」なのです。

・ヘロデは(ギ)で「英雄」→悪い意味で使われている。

ヘロデはローマ帝国に媚びをうること、自分の地位を得ようとした。

ヘロデの悪巧みは降りてくる神によって壊されたという意味で受け取ることができず。バベルの塔は高い塔を建ててあの神のようになろうという人間の心です。それを見た神様が降りて来て壊しました。

要点

自分の企ては神様が降りて来て壊されると伝えてあります。ヘロデは栄華を極めました。しかし、三代で途絶えました。自分の企てで生きていくと滅びます。ですから自分の企てではなく神様の企てで生きていくことです。人を指摘するのはイソップ童話の北風と太陽の北風なのです。恐れを抱かして益々着こませてしまうのです。太陽のように周りを温かく照らして自らが服を脱いでいくように。私達はそういう生き方が大切なのです。皆さんがされているが愛ではなく自分自身のためならその企てによってあなたは上手くいけません。だから自分を捨てるのです。心で思う不足を捨てるのが十字架の力です。私達の心が変えられるのは十字架の力です。天の御国が来るというのはすごく大きな事ではないのです。シンプルです。それと同じで、ほんの少しのズレが人生を大きく変えてしまいます。私達が御国に入れるようになるにはどういう風な心で生きていくのかといつも考えていきましょう。自分ではなく新しい聖書の価値観、神様の価値観で生きていく決断が必要ですよ。

最後に

①御国は私に来る！

あなたに神様は御国をもたらしたいのです。それは赦す心に来ます。赦す心とは比較や劣等感、相手や自分を責める心、私は愛されていない、私は必要とされていない私は駄目だと思う心を捨てること。捨てるにはイエス様があなたを愛してあなたのために十字架にかけて死に、そして復活して下さったことを受け入れることです。それが心の王座をイエス様に譲ることになります。

②御国の生き方はただ一つ！

生き方はただ一つ！イエスキリストの生き方だけで目線を変えましょう。船の中にはパンが一つしかないのです。私達はイエスキリストのただ一つの生き方を選びたいと願います。イエスキリストの十字架の愛、天の父の愛を選ぶ生き方です。

③御国の企てに生きる

私嫌われる、嫌われたら評価が下がる、これを知られたら頑張ってきたのに全部駄目になるなどと思う不足色々あると思いますが捨てるイエス様はそれ以上のものをくれます。

自分の企てではなく、神様の企てに生きていくことができますように。それが御国であり十字架の力です。ただ信じて私達は捨てるべきものを捨てていきたいと思えます。

(要約者:富岡 美千男)

(2022年7月31日)